



JASDAQ

2019年3月14日

各 位

スパークス・グループ株式会社
代表取締役社長 グループCEO 阿部 修平
(東証JASDAQスタンダード：8739)

「未来創生2号ファンド」農業用ドローンの企画製造販売ナイルワークス社へ投資実行
—新型機の量産体制を確立・2019年度より販売開始へ—

スパークス・グループ株式会社（以下、スパークスと表記）は、2018年7月に設立した「未来創生2号ファンド」が、農薬散布・生育管理・農業用ドローンの企画製造販売を行う株式会社ナイルワークス（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：柳下洋。以下、ナイルワークス社と表記）への投資を実行しましたので、お知らせいたします。ナイルワークス社は、保有する技術の展開範囲の拡大と、日本のみならず海外にも進出することで、精密農業のリーダーになることを目指しています。

■株式会社ナイルワークスについて

日本では、農業従事者の高齢化や後継者不足を背景に離農が加速しており、過去から培われてきたノウハウの断絶が危惧され、また、離農者の増加により耕地の集約や農業法人の大規模化が進み、ドローンやロボット、ICT等を活用した農作業の省力化や、品質管理の効率化が求められている中、ナイルワークス社は「空からの精密農業」をビジョンに掲げ、農業用ドローンおよび生育診断クラウドサービスの事業化を推進しています。2018年夏には、全国各地で75回におよぶ実証実験で農作業の省力化を検証し、地域や水稻の品種ごとの生育データをもとに、診断技術の精緻化を行い、また、量産化モデル第一弾である新型機「Nile-T19（プロペラガードを装着し、通信手段も二重化した安全性の高い機構）」を、2019年6月より販売開始するよう準備を進めています。

■「未来創生（1号）ファンド」及び「未来創生2号ファンド」の概要

未来創生（1号）ファンドはスパークスを運営者とし、トヨタ自動車株式会社、株式会社三井住友銀行を加えた3社による出資により、2015年11月より運用を開始しました。最終的には、上記3社を加えた計20社からの出資を受けました。「知能化技術」「ロボティクス」「水素社会実現に資する技術」を中核技術と位置づけ、それらの分野の革新技术を持つ企業、またはプロジェクトを対象に米国、英国、イスラエル、シンガポール、日本の約50社に投資しました。2018年下半年には、既存投資領域3分野に加え、新たに「電動化」、「新素材」を投資対象とした未来創生2号ファンドの運用を開始しました。

2019年1月末時点の運用資産残高は、1号と2号あわせて、992億円となっています。

<https://mirai.sparx.co.jp/>

■本件に関するお問い合わせ先

スパークス・グループ株式会社 広報室
TEL：03-6711-9100
pr_media@sparxgroup.com